

## 「検査点数の削減と包括化阻止」など要望 自民・議連で眼科医会

2015年11月12日 22:00



総会の冒頭に挨拶する田村会長  
= 12日、自民党本部

自民党・眼科医療政策推進議員連盟（田村憲久会長）の総会が12日に開かれ、日本眼科医会（高野繁会長）が「主要な眼科学的検査点数の削減と包括化の阻止」「水晶体再建術（白内障手術）の適正評価」の2点を要望した。

総会に出席した日本眼科医会の山岸直矢副会長は、眼科診療では、目的や手技の異なるさまざまな検査を患者の症状や疾病に応じて実施していると説明。「各検査の目的や手技が異なるにもかかわらず、それらが同一日に算定されているという理由だけで、中身を吟味せずに包括化することは合理的でない」などと訴えた。また医療経済実態調査の結果を踏まえ、2013年度と14年度を比較すると、眼科は他の診療科以上に損益率が悪化傾向にあることを指摘した。

一方、日本眼科学会・社会保険委員の高橋浩氏は、白内障手術の意義と社会的貢献度の高さなどを強調。07年の外保連手術医療材料調査で、水晶体再建術の材料費率は59%と高かったことに触れつつ、これ以上、診療報酬の点数を減らすことは、白内障手術件数そのものの減少を招くだけでなく、眼科医療全体を脆弱化させると訴えた。

出席した複数の議員からは、眼科医療が患者のQOL向上に貢献していることを、もっと党内で理解してもらえるよう取り組むべきという意見が出た。このほか、古川俊治参院議員は、総会に出席した厚生労働省保険局幹部に対し「（水晶体再建術で）短期滞在手術等基本料を設定したことで、白内障の診療に大きな影響を及ぼしていることは反省してほしい」と批判した。

診療報酬の個別点数については中医協で検討するテーマになるため、総会の締めくくりに挨拶で、田村会長は「私たちが『点数を何点にしろ』と言うべきではない。そのことを肝に銘じながらこの議連を運営していきたい」と述べた。